

令和8年度

牛島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ICTを活用した個別最適な学びと、協働的な学びの実現。
- 児童が自尊感情を高め、主体的に取り組む学習活動の実現。

校長

大櫛 秀明

学力向上推進員

河野 雅代

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組むことができる。 ○集中して読書・授業に取り組める児童が多い。 ●読書時間が減っている。 ●学習したことを日常生活に活用することができない。	・既習の知識と学んだ新しい知識を関連づけて、日常生活や他の学習場面で活用することができる。 ・読書に進んで取り組むことができる。	・既習の知識と学んだ新しい知識を結びつける場面や活用する場面を設定する。 ・読書環境を整える。 ・隙間時間などを活用し、読書する時間を作る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の考えを聞いたり、手順や手立てを示したりすると、新たな疑問や考えにつなげることができる。 ●自分の考えを深めたり、自分の言葉で表現・説明したりすることに苦手意識がある。	・教員の例示や友達の考えをもとに、自分の言葉で自分の思いを表現することができる。 ・友達の意見を聞いて、自分の意見と比べたり、考えを深めたりすることができる。	・発達段階に合わせた語彙の例を挙げたり、よくできている児童の意見や似ている意見から考えを広げたりさせる。 ・机間指導中に良い意見を褒めたり、考えのきっかけを与える声掛けをしたりする。 ・対話的な授業展開を行うことで、学習の目標を達成できるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題に対して意欲的に取り組める児童が多い。 ●苦手なことに対しては意欲が下がりがやすく、地道に取り組むことや前向きな姿勢を維持することに課題がある。	・自分で課題を見つけて取り組むことができる。	・授業の最後に振り返りの時間を確保する。その振り返りを次時の学習や自主学習に繋がられるように支援していく。 ・自分の課題に応じて、学習方法を選択できるようにする。(プリント、自主学習、ミラシード、教科書にラインを引く) ・児童が自分にあった自主学習の方法を選択することができるよう、様々な機会自主学習の仕方について児童へ示す。 ・低学年は、自主学習のかわりに、自分の課題に応じて選択できるように複数のプリントを用意する。			